

東日本大震災サポートグループ —ひとりひとりの心の復興と地域の再生—

日時：2012年3月24日(土) - 25日(日)

会場：仙台国際センター 萩

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

専門家向けワークショップ
「集団における外傷反応の治療的対応」

専門家向けワークショップ
「サポートグループの始め方」

一般・専門家向け講演
「震災を超えていく地域の再生と再構築」

一般・専門家向けワークショップ
「アゴラ - 東日本大震災サポートグループ -」

参加料金：無料

※ ワークショップ・講演には通訳がつきます。

申込方法：

1. 学会ウェブサイト (<http://www.iadp.info>) の申し込みページからお申し込みください。
2. 添付の申込用紙をご記入の上、FAX もしくは郵送で大会事務局までお送りください。

主催：国際力動的心理療法研究会 (IADP)
共催：震災復興心理教育臨床センター
宮城学院女子大学附属発達科学研究所
国際基督教大学高等臨床心理学研究所

後援：国際集団精神療法・集団過程学会 (IAGP)
宮城県
仙台市教育委員会

 International
Association of
Dynamic
Psychotherapy

国際力動的心理療法研究会 第18回年次大会

大会テーマ：「災害と外傷からの回復のための心理的トリートメント」

大会会長：小谷 英文 (IADP設立者・理事長／国際基督教大学 教授／日本)

大会副会長：セス・アロンソン (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 ファカルティ／アメリカ合衆国)

2012年9月1日(土) プレコンgress・プログラム
9月2日(日)、3日(月) コンgress・プログラム

会場：宮城学院女子大学 (宮城県仙台市)

大会事務局：PAS心理教育研究所
〒153-0041 東京都目黒区駒場2-8-9
Tel & Fax: 03-6407-8201

学会ウェブサイト：<http://www.iadp.info>

— ご招待 —

呼びかけ人



小谷 英文

(IADP 理事長／国際基督教大学 教授／国際基督教大学高等臨床心理学研究所 所長・東日本大震災特別 支援チーム リーダー)



ボニー・ブッセル

(国際集団精神療法・集団過程学会 理事 / 元アメリカ集団精神療法学会 会長・9.11 アメリカ同時多発テロ事件 災害支援特別委員会 委員長)



足立 智昭

(宮城学院女子大学 教授／宮城学院女子大学 発達科学研究所 所長／震災復興 心理・教育臨床センター 代表)

災害とメンタルヘルス

震災から 9 か月が経ち、被災地の復興の速度はばらつきが目立ち、被災後の心理的反応にも多様性と深刻さを増してきています。未だ続く余震、原発事故による放射能への懸念により、本来ならばすぐに収束するはずの急性ストレス反応が継続し、気持ちも体も休まらない状態が続いています。また、震災による強いストレス反応が固定化した外傷後ストレス反応の慢性化 (PTSD) も見られるようになってきました。その対策は、未だ目処が立っているとは言えない状況にあり、長期にわたる心の安全確保の闘いが強いられています。

心の傷 (外傷) の影響は、目に見えぬゆえに、思わぬところで様々な影響を及ぼします。恐怖心、不安、地震酔いなどの地震に直

結した敏感な反応は勿論のこと、震災前に比べて、体の疲れが取れなくなった、体の節々が痛む、血圧が高くなった、眠りが浅い、悪い夢を見る、たばこや飲酒が増えたなど、心身の不調を超えて、時に自己破壊的になってしまう重い実態を、様々な調査が浮き彫りにしています。災害後の多大なストレス状態では、人が本来持っている、自分で自分の体と心を健全に創造的にマネージする心の司令塔・心のリーダーシップ力を見失う危険が必然的に伴います。一人一人がこれを見失うと、その周囲にある家族、職場、地域社会にも多くの負担がかかり、こちらも思わぬ組織崩壊の危機すら招くことがあります。

プレカンファレンスの目指すもの

われわれは、2012 年度の国際力動的心理療法研究会年次大会を 9 月 1 日 (土)～3 日 (月) に仙台にて開催します。

そして、年次大会に先行して、2012 年 3 月 24 日 (土)、25 日 (日) に、IADP2012 プレカンファレンスを仙台にて開催します。東日本大震災を体験した被災者、支援者の誰もが集い、記念日を契機に、一人一人の心のゆとりを取り戻し、痛みを癒し、新たな活力、リーダーシップを皆で高めようとする試みです。

2 日間、講演を聞き、ディスカッションをし、その場で実際に活力を高めるプログラムによって、心理集団療法的体験を分かち合い、心のエネルギーを使うことと同時に蓄える術を学び合ひましょう。未曾有の震災後のメンタルヘルス危機に対応できる専門家の

力の必要性には、想像をはるかに越えたものがあります。支援に当たっているうちに多くの専門家も 2 次、3 次被災者になります。そこでわれわれは、災害による心の傷 (外傷) 治療の国際的指導者である Bonnie J. Buchele 博士を招待し、最新の知見、最新の実践手法を紹介していただくことで、被災者だけでなく我々専門家のリフレッシュを計ることにしました。

以下、3、4 ページに、各プログラムの紹介、講演者・トレーナーからのメッセージをご紹介します。聞き慣れない言葉もあるでしょうが、各トレーナー・講演者の熱をお受け取りください。

ぜひご参加ください。そして、共に心の活力、リーダーシップを取り戻しましょう。

プログラム

2012年3月24日（土）

9時30分～14時

メンタルヘルス専門家向けプログラム

ワークショップ：「集団における外傷反応の治療的対応」

トレーナー：

ボニー・ブッセル博士

人が生活している中で、圧倒されてしまうような出来事は起き得るものです。そのようなことが起きたときには、さまざまな外傷反応を刺激することがあります。その中には一過性のものもあれば、長く続くものもあります。そのため、どんな災害が起きたときにも、外傷反応を正確に診断する情報を得ることが、支援者にとって助けとなります。そして、外傷反応が起きていると診断されたときには、さらなる知識が必要になります。外傷を受けた個人をどう支援するか、治癒を促進する集団の力はどのようなものか、そして集団の力の利便性を知ることと、このようなグループのリーダーとして動くために必要な特殊なリーダーシップの技術などです。

ブッセル博士は、集団の理論と実践、精神分析と外傷の観

点から、参加者が、個人に起きる幅広い外傷反応を診断することができるように講義を行われます。また、愛着と外傷反応の関係について、最新の脳神経学的研究による発見も含めて論じられます。そして、外傷とその治療に関する理論的理解が提示されます。集団場面における外傷反応の治療について、適切と思われるグループのタイプにはどのようなものがあるか、それらの詳細を示すこととくに力点がおかれます。外傷を受けた人々のグループと作業をすることが、リーダーにどのような影響をもたらすかということと同時に、リーダーがどのように自身の影響力を最大化することができるかに、講演を通しての力点が置かれます。

対象：専門家（心理療法家・臨床心理士・医師・看護師・精神保健福祉士・教員・保育士）

人数：100名

14時30分～16時30分

一般・専門家向けプログラム

講演：「震災を超えていく地域の再生と再構築」

講演：ボニー・ブッセル博士

地域が災害を経験すると、その中にいる全ての個人はもちろん、全ての集団（家族、学校、職場、政府、その他、人と人がつながっている集まり）が被害を受けることになります。多かれ少なかれ、第一次の衝撃がこのような集団に損害や障害を与え、その機能を損なってしまうのです。残った人の生存が確認された時点で、地域再建の課題に取り組むことが可能になり、必要となってきました。コミュニティー全体への災害の影響を理解することは、再構築を最適な形で行なっていく上で重要なことです。

ブッセル博士は、地域組織のリーダーシップおよび集団生活に関する理解を、地域再建の過程に適用します。自然発生的かつ課題遂行型の集団に焦点がおかれます。それは、初期のダメージがどのようであったかという視点だけでなく、治癒を促進するた

め、そして再外傷化を最小限にするために、どのように再生され、修復されていくことができるかという観点からも重要なものだからです。また、地域の指導者への影響について、とくに、社会通念だけでなく、彼らに起こりがちな内的反応を探求することについても取り上げます。指導者というものは集団からさまざまな感情や態度を向けられがちですが、ときにはそれによって困惑したり、厄介なことが起きたりすることもあるからです。

対象：家族を基点とした、あらゆる集団、組織のリーダーシップの担われている方（親御さん、保育士の先生、幼稚園、小、中、高、特殊教育の先生、大学の先生、企業組織の長、エグゼクティブ、市町村の長、政治家の方）、あるいは、震災後の組織の復興、心の傷の組織への影響に関心のある方

人数：300人

メンタルヘルス専門家向けプログラム

ワークショップ：「サポートグループの始め方」

トレーナー：小谷 英文 教授
ボニー・ブッシュェル 博士

「サポートグループ」は、災害後のメンタルヘルス危機に対する最も有効な介入手法の一つです。日本ではあまり普及していませんが、心の傷からの回復、精神的活力の回復に、大きな効果をもたらすことが知られています。心の傷を癒し、心の鍛え、創造的にする集団を使った心理療法（集団精神療法）の世界をリードしてきた日米のトップトレーナーの二人に、基本原理と技法を身につければ、家族、学級、職員集団、病棟、職場のあらゆる場所で、誰でも実践することが可能なサポートグループ手法を、簡単な講義と、演習で徹底紹介します。

対象：東日本大震災対応のあらゆる専門家

例えば、

教育分野：保育士、幼稚園、小学校、中学校、特殊支援、大学教員など

医療分野：医師、看護師、ソーシャルワーカーなど

心理分野：臨床心理士、発達臨床心理士、学校心理士など

企業分野：企業メンタルヘルス担当、人事担当、人材育成担当

および、震災支援、外傷（心の傷）に対する教育・治療、サポートグループ技法、集団精神療法に関心のある大学院生

人数：100名

一般・専門家向けプログラム

ワークショップ：「アゴラ-東日本大震災サポートグループ-」

「アゴラ」、耳慣れない言葉でしょうか。「アゴラ」とは、人々が広場（アゴラ）に集い重要議題を語り合った古代ギリシャの市民会議です。被災にまつわる個々の悲惨な体験を語り合うことには、さまざまな壁があります。その一番の壁が、身近な人に負担を与えまいとする気遣いです。「アゴラ」では、古（いにしえ）のギリシャの広大なイメージを借りながら、日常の遠慮も気遣いからも離れて、心の専門家が責任を担う安全で安心な集団の中で、震災後の気になっていることを何でも自由に話し、同様の体験をしている他メンバーと共有し、参加者一人一人が、これまでの心身の荷を下ろし、気持ちの整理をし、一人一人のリーダーシップの持ち味を取り戻し、明日への活力を高めることを狙います。7名前後の小さな集団での語り合い、参加者全員の語り合いによる大きな集団での語り合い、そして、アゴラの参加者の皆さんが得意な分野でワークショップ（インタレスト）を開き、体も心もリフレッシュする体験を目指します。民謡、絵画、キャッチボール、親子の遊び教室、企業人の対話教室、など、お互いの心と体を大事にする空間を参加者全員で作っていきます。心の奥から発せられる自然な気持

ちを共有できる安全ネットの確かな集団で自分を語る経験は、何より格別のものがあります。「気持ちの整理をしたい」「心の重い荷を下ろしたい」「孤立感をぬぐいたい」「仕事の活力を養いたい」「外傷（心の傷）やPTSD（外傷後ストレス障害）の対応を知りたい」「サポートグループを学びたい、体験したい」など、お子さんから、おじいちゃん、おばあちゃんまで、ぜひ、身近な人をお誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

対象：東日本大震災を体験した方ならどなたでも。サポートグループの体験・実践に関心にある方。

担当：Bonnie Buchele、小谷英文、足立智昭、西川昌弘、能幸夫、宇佐美しおり、橋本和典、川村良枝、中村有希、髭香代子、石川与志也、他

定員：100人

東日本大震災サポートグループ—ひとりひとりの心の復興と地域の再生— 参加申込書

記入日：20 年 月 日

ふりがな				歳	男・女	() 専門家参加
氏名						() 一般参加
連絡先	〒 _____ _____					
	電 話: _____ - _____ - _____					
	Eメール: _____ @ _____					
所属先	名称					
	所属・職種					
	所在地	〒 _____ _____				
	電 話: _____ - _____ - _____					
最終学歴・取得学位						
今回の大会をどのように お知りになりましたか						

■ 参加プログラム

当てはまる欄の□に☑印をつけてください。

参加プログラム名	チェック
2日間全日程参加	<input type="checkbox"/>
3月24日(土) 専門家向けワークショップ「集団における外傷反応の治療的対応」	<input type="checkbox"/>
3月24日(土) 一般・専門家向けレクチャー「震災を超えていく地域の再生と再構築」	<input type="checkbox"/>
3月25日(日) 専門家向けワークショップ「サポートグループの始め方」	<input type="checkbox"/>
3月25日(日) 体験ワークショップ「アゴラ: 東日本大震災サポートグループ」	<input type="checkbox"/>